

(別記)

犬山市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

犬山市は水稲と果樹を主体とする農業生産を展開してきたが、近年は高齢化と兼業化が進んでおり、遊休農地の増加が懸念される。こうした中、耕作地の維持が課題となっており、担い手への利用集積を促進するとともに、他の作物へ転換を進めていく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

小規模兼業農家による作付面積が大きいことから、主に自家消費用米への作付けが中心であり、担い手による生産が販売用米として出荷されており、担い手への利用集積の促進を図る。生産量については、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案した米生産の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を中心とした転作作物に位置付ける。飼料用米は、主に主食用品種で対応しているが、平成27年度から導入した多収品種の作付拡大を推進する。

イ 新市場開拓用米

安定的な需要が見込めるものとして、取組を推進する。

ウ 加工用米

酒米品種の「夢吟香」は醸造用や麴用など安定的な需要が見込めるものとして、作付拡大を推進する。

エ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として取組を継続しており、現行の面積を維持していくこととする。

(3) 麦、大豆

少数の担い手により取組を行っている。効率的な作物であるが、排水など湿害対策が必要であることから、麦については作付拡大し、大豆については現行の面積を維持していくこととする。

(4) 高収益作物（野菜等）

すでに野菜栽培を実施しており、かつ販売ルートを確保している農業者を中心に面積拡大を行っていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	416	410	405
飼料用米	67.2	60.3	69.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	1.5	5.2	6.0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	0	0.6	1.0
備蓄米	1.9	1.9	1.9
麦	9.0	10.8	11.0
大豆	2.7	2.7	2.7
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物			
野菜	28.1	28.3	28.7
果樹	29.3	29.3	29.3

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	飼料用米	飼料用米の生産コスト低減支援	取組面積	H29 67.2ha	H32 69.0ha
2	麦	麦の品質安定及び高付加価値化の取組支援	G A P 取組面積	H29 9.0ha	H32 11.0ha
3	野菜（かんしょ、さといも、とうがん、かぼちゃ、かりもり）	高収益作物支援	取組面積	H29 7a	H32 10a

※必要に応じて、面積に加え当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。
 ※目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり